

研究・調査報告書

報告書番号	担当
106	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳) Interactions of wine drinking with omega-3 fatty acids in patients with coronary heart disease: a fish-like effect of moderate wine drinking. 冠動脈心疾患患者におけるワイン飲酒と ω -3脂肪酸との相互作用：魚と類似の中等度ワイン飲酒の効果	
執筆者 de Lorgeril M, Salen P, Martin JL, Boucher F, de Leiris J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Am Heart J. 155(1): 175-181 (2008)	
キーワード アルコール、ワイン、 ω -3脂肪酸、冠動脈心疾患、 α -リノレン酸	
要旨 背景： 中等度アルコール飲酒と海洋性 ω -3脂肪酸(ω 3)の両方は冠動脈心疾患(CHD)の死亡率を低下させることに関連している。しかし、CHD患者でワイン飲酒と ω 3との相互作用について評価した報告は殆どない。	
方法： ワイン飲酒と海洋性 ω 3の間の関連性について、高レベル α -リノレン酸(ALA、植物性主要 ω 3)食の効果を検討する無作為化試験に参加しているCHD患者での横断的研究で評価した。一日のエタノール摂取量はエネルギー量として計算し、総エネルギー当たりのパーセンテージで表した。それぞれの患者群での食事中の植物性および海洋性 ω 3については注意深く補正評価した。	
結果： 患者をエタノールの習慣的消費量に応じて分類した。さらに、“高ALAレベル群”と対照群(“低ALAレベル群”)とは別々に解析した。各々のグループ毎に解析すると、海洋性 ω 3レベルはアルコール摂取量の増加と共に増加し、エイコサペンタエン酸(EPA)レベルでは、低ALA群で50%($P<0.005$)、高ALA群で37%($P<0.05$)の増加が観察された。(食事中のEPAを含め)可能性のある交絡因子を調整した後、多変量線形モデルで解析した結果、ワインエタノール摂取とEPAの間の相関は低ALA群($P<0.001$)、高ALA群($P<0.05$)共に統計的に有意であった。	
結論： CHDを罹患している患者で、中等度のワイン飲酒は非飲酒と比べて海洋性 ω 3の高レベルと関連していた。本研究の結果は、より多くの被験者グループで追加確認する必要があるが、 ω 3レベルに関して魚に匹敵するワインの効果は、CHDに対するワインの防御効果の一部を説明するものである。	